

学 校 評 価 一 覧 表 ①

(様式1) 令和8年度 太田市立尾島中学校

羅 針 盤			方 策	自己評価①（令和8年7月）				自己評価②（令和8年12月）		
評価対象	評 価 項 目	具体的数値項目		自己評価	生徒％	保護者％	改 善 策	生徒％	保護者％	改 善 策
Ⅰ 保護者との連携	1 生徒の活動の様子を保護者や地域に知らせる努力をしている。	○「学校や子供の様子が分かる」と保護者の90％以上が答えている。	○各種通信・便り・ブログなどの広報活動の充実 ○学級・学年懇談会等の効果的な運営	100 A	84	85	・定期的に発行する各種通信、ブログやタブレットによる情報発信の内容を工夫する。			
	2 保護者が学校行事やPTA活動に参加したり協力したりしやすいように努めている。	○学校やPTAの諸活動に保護者の80％以上が年2回以上参加している。	○学校行事等の魅力ある企画とお知らせの工夫 ○全員参加を目指した事業計画と会員相互の参加への誘いかけ（PTA）	100 A		95	・通知を早めに発行したり、メールで事前に知らせたりする。 ・PTA活動の効率化と活性化に努める。			
	3 保護者が学校に連絡や相談、訪問をしやすいように連携に努めている。	○子供の健康、生活、学習などについて学校に連絡・相談等しやすいと、保護者の90％以上が 答えている。	○教育相談や保健相談の充実 ○三者相談の実施 ○SC、SSWの活用	100 A		89	・日頃から誠実な対応をし、生徒や保護者と信頼関係を築く。 ・SCやSSWを紹介し、専門家との相談も可能であることを周知する。			
Ⅱ 確かな学力	4 「分かる授業」を目指し指導法を工夫したり、個に応じた学習指導を実践したりして、生徒の学習意欲や学力の向上を図っている。	○「授業が分かる」「授業が楽しい」と生徒の80％以上が答えている。	○「尾中型学びのスパイラル」を意識した授業づくり ○教員の授業力向上のための校内研修 ○生徒の主体的な学びのための授業改善の工夫	100 A	86	72	・校内研修を通して授業改善を推進し、生徒一人一人が自ら学ぶ授業づくりに努める。 ・自己調整力を高めることで客観的に学習状況を把握し、自ら課題に取り組む姿勢を育成する。			
	5 タブレット端末を効果的に活用した授業づくりに取り組んでいる。	○授業中タブレット端末等を使って学習を進めていると、生徒の80％以上が答えている。	○教員のICT活用力向上のための校内研修 ○効果的にICTを活用した授業の工夫 ○タブレット端末を活用して行う課題の工夫 ○問題解決型の学習活動の工夫	93 A	85		・タブレット端末を活用して、「指導の個別化」と「学習の個性化」により一人一人の学習を支援する。 ・教員間で互いの授業を参観することにより、教員のICT活用力を向上させる。			
	6 自主的な学習習慣を生徒に身に付けている。	○家庭学習または読書に進んで取り組んでいると、生徒の80％以上が答えている。	○家庭学習習慣づくりの指導 ○「学習の手引」の活用 ○課題未提出生徒への補習	75 B	69	55	・家庭学習と授業を連動させる授業づくりに努める。 ・定期テスト前や長期休業中に補充学習を行い、家庭学習の習慣化につなげる。			
Ⅲ 豊かな心の育成	7 いじめのない温かい人間関係を育てている。	○「先生は悩みやいじめの解消に努めている」と生徒の90％以上が答えている。	○いじめ撲滅運動 ○否認知能力検査S2等を活用した学級づくりの強化	100 A	93	88	・生徒主体のいじめ防止活動を推進する。 ・S2を効果的に活用する。 ・生活ノートやアンケート等の活用と日常の会話からいじめの早期発見・対応に努める。			
	8 生徒は進んであいさつし、時と場に応じた適切な言動をとっている。	○生徒の90％以上が進んであいさつをしたり、時と場に応じた言葉遣いができている。	○生徒会による「あいさつ運動」の推進 ○学校支援センター等、他団体との連携	96 A	96	93	・生徒主体のあいさつ運動を推進する。 ・あいさつや適切な言葉遣いができている生徒を賞賛する。 ・更生保護女性会と連携し、「あいさつ運動」の充実を図る。			
	9 生徒は進んで心を磨く活動やボランティアに参加している。	○生徒の80％以上が清掃やボランティア活動に進んで取り組んでいる。	○学活や道徳の時間での指導 ○率先垂範を意識した清掃の指導 ○校内ボランティアの機会の充実	82 A	76	75	・SDGsの学習を通してボランティアへの意識を高める。 ・意図的に校内でボランティアの機会を設ける。 ・保護者とも連携し、親子資源回収を推進する。			
Ⅳ 健康・体力	10 生徒は基本的な生活習慣を身に付け、健康の保持・増進に努めている。	○生徒の80％以上が1日6～8時間の睡眠時間や朝食をとっている。	○保健室だより・給食だよりと連携した指導 ○健康管理等に関する学級指導の充実	78 B	91	91	・委員会活動を活性化させ、生徒自ら健康管理ができるようにする。 ・心の健康に重点を置いた教育相談や学級指導の充実を諮る。			
	11 生徒は日常生活の中で運動に親しみ体力や技術の向上に努めたり運動を楽しんだりして体力の保持増進に努めている。	○生徒の80％以上が運動（体育、部活動を含む）や地域のスポーツ活動に取り組んでいる。	○部活動を始めとし、生徒が主体的に運動ができる環境整備の充実	100 A	85	85	・生徒が主体的に取り組むことができるような体育の授業づくりや部活動のメニューづくりを推進する。			
	12 学校での部活動は活動方針に基づき行われている。	○生徒や保護者の90％以上が適正な部活動が行われていると答えている。	○尾島中部活動方針に基づいた適正な運営	100 A	82	95	・部活動方針に則り、望ましい部活動の在り方を全教職員で共有し、生徒			

							や保護者への理解も得ながら実践していく。			
	13感染症や病気の予防について、生徒の指導や予防対策を適切に行っている。	○生徒の９０％以上が感染症や病気の予防に気をつけていると答えている。	○基本的な感染症対策に基づいた行動の徹底 ○感染症予防の啓発活動	100 A	95	100	・基本的な手洗い、うがいをさらに徹底して指導する。 ・衛生検査を行い、生徒自身が日常の行動から感染症を予防する意識を高める。			
Ⅴ 施設・設備の安全確保	14施設・設備の安全管理や危機管理の徹底を図っている。	○学校は安全点検を月１回以上、安全に関する訓練を年２回以上実施している。	○施設・設備の安全点検の励行 ○避難訓練の実施 ○施設・設備の計画的な修繕	96 A	95	99	・毎月の安全点検を確実にを行い、校務員と連携して危険箇所の修繕を行う。 ・避難経路や方法について、臨機応変に対応できるような指導を積み重ねていく。			
	15交通事故や通学路の危険箇所、不審者への対策を十分にとり、登下校の安全対策に努めている。	○生徒の９０％以上が交通ルールやマナーを守り、交通事故や不審者に注意して安全に登下校している。	○事例を挙げた交通安全指導 ○自転車の乗り方の実地指導 ○通学路の危険箇所の確認 ○青少推と連携した青色回転灯パトロールの実施	96 A	98	92	・交通安全教室で警察等の専門家から危機意識を高める指導をしてもらう。 ・安全委員会によるデジタル危険マップ等を使った生徒主体の交通安全指導を行う。			
	16学校は生徒の動向をしっかりと把握している。	○欠席・遅刻の連絡は保護者の９０％以上が、早退・ケガなどの連絡は１００％の教職員が行っている。	○欠席・遅刻の連絡の徹底 ○早退・ケガの連絡の徹底	100 A	96	99	・欠席や遅刻の連絡がないときには必要に応じて家庭訪問を行う。 ・生徒の体調不良やケガについては、大事をとることと保護者への連絡を密にすることを徹底していく。			
Ⅵ 進路・生き方指導	17生徒が自己の生き方や将来について考えられるよう、進路についての学習や指導態勢を工夫・改善している。	○学校の進路学習や体験活動等を通して自己の生き方や将来のことを８０％以上の生徒が考えるようになってきている。	○３年間を見通したキャリア教育の充実 ○社会人講話夢授業の実施。	100 A	81	63	・学校で行っているキャリア教育についてタブレットによる配信・ブログ等でキャリア教育について発信していく。 ・生徒一人一人の将来につながる進路学習の充実を図る。			
	18生徒が将来の夢や希望をもてるよう、キャリア教育や進路情報をもとに親子で話し合えるような機会を設けている。	○将来の夢や希望する進路について、生徒の８０％以上が親子で話し合っていると答えている。	○三者相談 ○学年懇談会、進路学習会 ○進路だよりの発行	96 A	71	75	・授業で生徒が自己の生き方や将来について考えたことを家庭で共有できるように工夫する。 ・三者相談や学年懇談会で、親子で話し合える資料やワークシートを作成する。			
	19生徒や保護者に対して、進路の情報提供に努めている。	○生徒、保護者の８０パーセント以上が学校は将来の夢や進路について考えることが出来るような情報を教えてくれると答えている。	○学年便り、進路だよりの発行と情報の提供	96 A	87	82	・学年だよりや進路だよりの内容を充実させるとともに、紙面以外の発信方法を検討する。			
Ⅶ エコ活動	20エコ活動を積極的に行っている。	○教育活動の必要な場面でエコ活動を積極的に推進していると、生徒、保護者ともに９０％以上が答えている。	○エコ活動の啓発 ○SDG s について教科横断的な学習と実践する態度の育成	93 A	91	90	・SDG s について教科横断的な学習を充実させる。 ・ISOはなくなったが、大切なエコ活動は継続していく。			